

「歯科医師が知っておきたい肝炎ウイルスの基本」講習会開催
学術報告
学術講演会報告

福岡歯科大学 鹿児島県同窓会長 **要 光** (11期生)

肝臓疾患について勉強したのは学生以来ほとんどないという方、多いのではないのでしょうか。私(11期)は、卒業して29年になりますが、29年間きちんと肝臓疾患について勉強したことがありませんでした。大学の同級生で佐賀大学で教鞭をとっている長尾由実子教授は、「肝臓から口腔を考える、口腔から全身臓器を考える」ということを続けてきた人です。平成29年3月に、毎年恒例の九州歯科大学鹿児島県同窓会と本学鹿児島県同窓会の合同研修会で、長尾教授をお招きし、肝臓疾患と口腔の関係についてご講演いただきました。卒業以来、肝臓疾患について勉強していませんが、これまでに参加したほとんど全員が、これまでにの勉強に驚き、この話を多くの人に聞いてもらいたいとの思いに駆られました。

講演では、「歯科の関係者の中に、C型肝炎の患者のみに過剰な感染対策をする方がいる。より多くの歯科関係者に肝炎の最新情報、最新治療を知ってもらう必要がある。C型肝炎は、現在、完治する病気であるが、感染していることを知らない方も含めC型肝炎患者が100万人いる。扁平苔癬が、肝外病変だということを知っていると、肝炎の治療勧奨につながる。C型肝炎患者の状況を打開できるのは歯科医師である。」といった内容で、参加された多くの方から、この講演を聞いてよかったという言葉が聞かれました。



平成29年9月3日 鹿児島県歯科医師会館での講演



平成29年3月 九州歯科大学鹿児島県同窓会・福岡歯科大学鹿児島県同窓会合同研修会にて

同窓生からの手紙

歯科医療の発展を担って

福岡歯科大学同窓会副会長 **高嶺明彦** (6期生)

本学は、昨年で創立45周年を迎え、4,357名という数多くの卒業生を輩出して参りました。また、本年2月1日より3期生の高橋 裕先生が母校の歯科大学長に同窓生として初めて就任されました。大変喜ばしい事です。更には、九州8県のうち、寺尾隆治佐賀、長尾博通大分、宮口巖長崎の各県歯科医師会会長を同窓生が務めています。さらに、神田晋爾福岡市歯科医師会会長をはじめ、ここに書き切れないほどの多数の同窓生が、各県歯科医師会の重要な役職に就いています。すなわち、各地域における歯科医療の充実、発展のためにたくさんのお同窓生が、市民・県民・国民の期待を担って活躍しているのです。同窓会としては、誠に喜ばしい限りであり、誇りに思っています。これからも、全国のお同窓生が、日本の歯科医療の発展のために、歯科医師会、学術、臨床、という各々の分野において、獅子奮迅のご活躍をされることを期待して止みません。今、歯科医療界は、大きな曲がり角を迎えようとしています。学閥に囚われることなく、謙虚に、しかし強力に、歯科界を牽引する同窓生が増えてくると思っています。そして、同窓会は、母校の発展のために全力を傾注すると共に、すべての同窓生の皆様の活躍に、心からのエールを送り、支援いたしたいと考えています。

Hi! From Clinic

試される一年、多くの人への感謝の毎日

廣田 正毅 (27期生)

こんにちは。27期生の廣田正毅と申します。平成17年に卒業し大学の歯周病科、一般歯科に勤務し、父と弟のクリニックと此処まで多くの方に支えて頂き現在に至ります。気付けば歯科医師になって12年。最近では参加した講習会でも私より若いドクターが多いことも増えてくる年齢になってきました。それでも、学ばば学ばばほどに歯科の世界は奥深く未熟を感じる毎日です。

そんな中、平成29年の1月に小さい頃から馴染みのある福岡市南区長丘の地で開業を致しました。地元での開業は同級生や幼稚園の先生など、お会いすることができ、改めて此処まで多くの人に支えてもらっていた事をより実感致しました。開業以来、予想外な出来事に見舞われる事もしばしばありました。その度に一生懸命だと知恵が出る、中途半端だと愚痴が出る、この言葉通りに良いアイデアが出るまでスタッフと日々、話し合いPDCAサイクルを回し続けなんとか一年乗り越えてきたように思います。クリニックが地域に何を求められているか? 目の前の患者さんは一体、どうなりたいのか? これからも毎日、試行錯誤、切磋琢磨しここまで支えてもらった分の恩返しを少しでも行っていきたいと思えます。

クリニックからこんにちは!



こんにちは。16期卒の向坊重広です。平成5年に大学を卒業後、ラグビー部に在籍した縁もあり母校の口腔外科学講座で12年ほどお世話になりました。その後、地元北九州の八幡で親子継承にて歯科医院を引き継ぎ、10年になろうとしています。我々が学生の頃は5年生から約1年間にわたって臨床実習がおこなわれていました。当日の課題をこなせない場合、講座によってはかなり遅い時間まで実習室にこもり、その流れで居酒屋に直行するなんて日も多くありました。時にはさまざまな講座の先生を交えてあちこちの実習グループで頻りに催される軽い宴のなかでお互いを叱咤激励しながら、何とか臨床実習が終了。その後も対卒業試験、対国家試験として宴は形を変えながら継続。この慣習は卒業の際まで続き、このいろいろなグループの集まりをまとめて継続したいと数名の音頭で同期生の会が発足しました。1988年に入学し、学籍番号88で始まる期、88会と命名され、少ない年で20名弱、多い年では50名程度、現在まで毎年欠かすことなく続いています。卒業後20数年を経て50歳近くになり、周囲の環境も落ち着いてくると元来の性格である自分に甘い(ぬるま湯に浸かりたくなる)性格が顔を出し、仕事や趣味に持つていたはずの熱い気持ちも冷めてきます。そんな中で毎年開催される88会同期生がさまざまな趣味を満喫し、仕事への情熱も維持して人生を謳歌している姿を拝見し、杯を酌み交わすことで一時でも自分に活を入れることができます。また同年代で同業なために悩みも似たり寄ったりで良きアドバイスももらうことも多々あります。この度第24回の88会が地元の北九州で開催されました。これからも続くであろうこの会で私も同期生の励みとなる将来を夢見ながら、自分の人生を務めていきたいと思います。同窓生の皆様方にも健康に留意し、ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



卒業生 NOW

「同期会のすすめ」

向坊 重広 (16期生)

こんにちは。16期卒の向坊重広です。平成5年に大学を卒業後、ラグビー部に在籍した縁もあり母校の口腔外科学講座で12年ほどお世話になりました。その後、地元北九州の八幡で親子継承にて歯科医院を引き継ぎ、10年になろうとしています。我々が学生の頃は5年生から約1年間にわたって臨床実習がおこなわれていました。当日の課題をこなせない場合、講座によってはかなり遅い時間まで実習室にこもり、その流れで居酒屋に直行するなんて日も多くありました。時にはさまざまな講座の先生を交えてあちこちの実習グループで頻りに催される軽い宴のなかでお互いを叱咤激励しながら、何とか臨床実習が終了。その後も対卒業試験、対国家試験として宴は形を変えながら継続。この慣習は卒業の際まで続き、このいろいろなグループの集まりをまとめて継続したいと数名の音頭で同期生の会が発足しました。1988年に入学し、学籍番号88で始まる期、88会と命名され、少ない年で20名弱、多い年では50名程度、現在まで毎年欠かすことなく続いています。卒業後20数年を経て50歳近くになり、周囲の環境も落ち着いてくると元来の性格である自分に甘い(ぬるま湯に浸かりたくなる)性格が顔を出し、仕事や趣味に持つていたはずの熱い気持ちも冷めてきます。そんな中で毎年開催される88会同期生がさまざまな趣味を満喫し、仕事への情熱も維持して人生を謳歌している姿を拝見し、杯を酌み交わすことで一時でも自分に活を入れることができます。また同年代で同業なために悩みも似たり寄ったりで良きアドバイスももらうことも多々あります。この度第24回の88会が地元の北九州で開催されました。これからも続くであろうこの会で私も同期生の励みとなる将来を夢見ながら、自分の人生を務めていきたいと思います。同窓生の皆様方にも健康に留意し、ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。